

令和8年度自己評価計画

石川県立金沢泉丘高等学校(通信制課程)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度	判定基準	備考
1 ICTツールを活用することで生徒と教員の双方向の連絡・学習支援体制を整え、生徒個人に応じた学習支援を進め、レポートの提出率やスクーリングの出席率を向上させる。	① ICTツールを利用し、生徒からの質問に答えるだけでなく、日々の声掛けや、学習の進捗に応じた個別アドバイスを発信するなど双方向でのやり取りを行う。学校配信メールで、保護者への「声掛け依頼」を定期的に配信し、家庭と学校が連携した学習支援体制を構築する。レポート提出に関する相談会を開催する。	教務課 教科会 学年会	<ul style="list-style-type: none"> 第1期の締め切りに合格したが、途中でレポート提出に挫折する生徒が増加した。 年間を通じた定期試験の受験とレポートの提出ができないため、ICTツールを使った継続的な支援を必要とする生徒が多い。 自学自習や通学に関する自己管理ができない生徒のためのサポートが必要である。 	【成果指標】 第1期締め切までに報告課題を提出した生徒が継続的に学習をすすめ、定期試験を受験している。	第1期締め切までに報告課題を提出した生徒のうち、定期試験を受験した生徒の割合が A 75%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C以下の場合は手だてを検討する。	
	② ICTツールを活用してアンケートやクイズなどを発信することで生徒がクラスルームを使用しやすい環境を作る。また、HPで学校でのスクーリングの様子を伝えるなど、学校の様子を生徒・保護者に発信する。	教務課 教科会 学年会	<ul style="list-style-type: none"> Google Classroomを利用することで、生徒の学習を支援する体制を整えることができた。 質問数は前年度よりも減少しており、生徒の学習への意欲低下が懸念されている。 	【成果指標】 生徒が年間を通じて継続してスクーリングを受けている。	スクーリングを受けた生徒数が前年度比 A 120%以上 B 110%以上 C 100%以上 D 100%未満	C以下の場合は手だてを検討する。	
2 学校における日々の学習や生徒会活動などを通して、社会的なマナーや規範意識の定着と、自他の生命を尊重する人間性の育成を図る。	① 教職員が生徒と関わる場での声かけやICTツールでのやり取りを通して、社会参画への準備としてのマナーの重要性を説く。また、他者を尊重する態度の育成を図る。	生徒・図書課 学年会 担任	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面での声かけや電話、Google Classroomでの発信により、生徒とのつながりを意識した指導の成果が表れつつある。今まで以上に生徒一人一人とのつながりを大切に指導を心がける必要がある。 	【成果指標】 生徒が自己の生活規律を意識して学校生活を送っている。	「自分は生活規律を守っている」という質問によくあてはまると回答をした生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	C以下の場合は取組体制を検討する。	
	② 生活体験発表会等の学校行事を通して、自己肯定感の育成を図り、他者とのつながりを感じさせることでよりよい学校づくりに努める。また、生徒の意見を発表する機会を増やし、生徒の意見に耳を傾けることで、生徒の自己有用感を持たせる。	生徒・図書課 学年会 担任	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が学校生活に対し、充実感を持っており、安心して学べる環境が形成されていると考えられる。学習環境はもとより、生徒会活動の更なる充実が求められる。 	【成果指標】 学校生活が充実していると感じている。	「学校生活が充実している」という質問に「よくあてはまる」と回答をした生徒の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	C以下の場合は取組体制を検討する。	

	③ 「ほけんだより」や学校HP等で健康に関する情報を提供し、身体計測・各種検診の受診のメリットを生徒・保護者に確認させ、健康管理への意識を高める。	保健課・相談室 学年会 担任	・各学年で前年度よりも受診率が低下した。学年が進むにつれて受診率が低下している。自己管理や健康管理の大切さを啓発する必要がある。	【成果指標】 生徒が各種検診を受診している。	生徒の各種検診の受診率が A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満	C以下の場合は取組体制を検討する。	
--	---	----------------------	--	---------------------------	--	-------------------	--

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度	判定基準	備考
3 家庭との連携を図り、生徒一人ひとりの学習状況を教員間で共有し、生徒に対して組織的に支援する体制をつくる。	6月と10月に保護者懇談会および生徒個人面談を実施する。ICTツールを活用し、面談で話し合う内容を事前に発信し、「参加するメリット」を具体的に周知する。学校HPに学習に関する情報や行事の様子を動画や写真を用いて定期的に発信し、日頃から学校を身近に感じてもらうことで、相談しやすい信頼関係を構築する。	総務課 学年会 担任	・保護者懇談会の参加率は前年度を上回ったが、約半数の保護者が参加していない。懇談会の目的や意義について保護者に周知するとともに、電話等により担任と関わる機会を増やす必要がある。	【努力指標】 保護者が担任と年度内に1回以上懇談している。	保護者懇談会の参加率が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C以下の場合は手だてを検討する。	
		総務課 学年会 担任	・生徒との面談実施率は、前後期とも昨年度を下回る結果となった。面談ができなかった生徒に対し、Google Classroomや電話を通じて、担任と生徒との関係づくりに力を入れる必要がある。	【努力指標】 教職員が生徒と年度内に1回以上面談している。	生徒との面談実施率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C以下の場合は手だてを検討する。	
4 各分掌の業務の平準化と効率化を図り、生徒や教職員のウェルビーイングが高まるよう、管理職は風通しの良い職場の雰囲気づくりに努める。	教職員が各分掌や学年でのノウハウを共有化し、各業務に個人の偏りがないようにする。また、教職員の心のゆとりが生徒へ指導に還元できることを理解し、年休取得を推奨して働きやすい職場を築く。	教 頭 各 課 各学年	・年休を取得する教員の割合は高くないが、時間外勤務時間は平均するとそれほど長くない。個人にかかる業務を課内や教科で分担できるように業務を改善する必要がある。	【努力指標】 教職員が年休を取得し生徒の指導に還元している。	年次休暇の取得率が前年度比 A 120%以上 B 110%以上 C 100%以上 D 100%未満	C以下の場合は手だてを検討する。	
5 学校HPや校内掲示板の充実を図り学校行事への参加意欲を高めることで、生徒の自己肯定感を高め、将来の進路選択の意欲を高める進路指導やキャリア教育を進めていく。	① 学校からのお知らせや行事の様子などを学校HPに更新する回数を増やし、学校行事への参加率を高める。	総務課 教務課 生徒・図書課 学年団 担任	・現在、学校HPは整理され、行事ごとに生徒の様子を知らせている。在校生に必要な予定や手続きについて、動画等でもHPに掲載するなど改善の余地はある。	【満足度指標】 生徒が学校行事に参加している。	学校行事に参加する生徒の数が前年度比 A 120%以上 B 110%以上 C 100%以上 D 100%未満	C以下の場合は手だてを検討する。	

	<p>② 生徒が自分の適性を知り、将来就きたい仕事について理解を深められるよう、ガイダンスや総合的な探究の時間などを活用して就労の意義や進路に係る情報をわかりやすく提供していく。</p>	<p>総務課 進路課 教務課 卒業学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生を対象に行った進路説明会について、ほとんどの生徒が「役立った」と回答しており、非常に有効であったと思われる。就職希望者に対する取り組みを充実させる必要がある。 ・卒業生145名のうち、進路決定者は111人(76.6%)であった。今後さらに進路課主導で各学年と生徒の進路希望状況の共有をすすめ、卒業後の進路に関する情報提供や個別対応を適切に行う必要がある。 	<p>【成果指標】 生徒は卒業時に進路が決定している。</p>	<p>卒業時に進路が決定している生徒が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>C以下の場合は手だてを検討する。</p>	
--	---	-------------------------------------	--	--	--	-------------------------	--